



玄洋会便り

<p>第160号</p> <p>発行所 社会福祉法人玄洋会 指定障害者支援施設 昭和学園 〒811-3522 福岡県福津市奴山616 TEL (0940) 52-4686 http://www.genyoukai.or.jp/ E-mail: syouwa@mocha.ocn.ne.jp 福岡県障害児等療育支援事業 【地域支援室】 児童・学童発達支援事業「さくら」 日中一時支援・短期入所受付 TEL (0940) 52-8551</p>
<p>障害福祉サービス事業所 【やまと更生センター】 福岡市東区知的障がい者 相談支援センター 福岡市東区三吉8-105-1 TEL (092) 607-3778</p>
<p>児童発達支援センター 障がい児通園事業 【糟屋子ども発達センター・さくら保育園】 糟屋郡篠栗町尾仲1100-3 TEL (092) 948-4468</p>
<p>障害福祉サービス事業所 【浜千鳥】 宗像市神湊118-4 TEL (0940) 62-1167</p>
<p>共同生活援助事業 【ケアホーム若杉】 糟屋郡篠栗町中央6丁目32-1 TEL (092) 931-5011</p>
<p>障害福祉サービス事業所 【宝満】 糟屋郡粕屋町酒殿1-23 TEL (092) 652-1005</p>
<p>児童発達支援センター 【福津子ども発達センター・さくら館】 福津市福岡南3-5-8 TEL (0940) 42-1235</p>
<p>【ゆうゆうぶらざ】 宗像市神湊118-4 TEL (0940) 62-5777</p>
<p>共同生活援助事業 【グループホーム安ら居】 福津市奴山603 TEL (0940) 62-5056</p>
<p>児童発達支援センター 【福岡東子ども発達センター・さくら園】 福岡市東区雁ノ巣1丁目6-10 TEL (092) 692-5987</p>
<p>編集責任 山田 正道</p>

金子理事を偲ぶ

三月九日、訃報が入った。あーっと思つた。金子進之助君とは大学の同期である。単なる同期の学友というだけではない。文字通り肝胆相照らす仲だった。近年、年をとって逝き遅れた方が先に逝つた方の弔辞を読むという約をしていたので私が弔辞を読む破目となつた。

六十年来の付き合いであるので万感胸に迫るものがあつた。

二人共専攻は心理学であつたが就中、臨床心理学を共に選び、児童相談所や県立精神病院での研究会によく一緒にいたものだった。同じ臨床心理といつても私は心理検査、彼は心理療法を主として勉強した。相互にいい刺激剤となつた。

僕は福岡、彼は大分の地でそれぞれ拠点を構え心理臨床活動を開始した。

僕達は若かつた。昭和41、42年頃のことである。九州臨床心理研究会（九州臨床心理学会の前身）を創り、鹿児島からは佐藤教授や園田、高山等の先輩方、長崎からは高山先生、北九州からは吉良先生、熊本からは上田先生等、今から想えば錚々たるメンバーが集つて勉強会と呑み会を行つたものだ。

心理士の身分、職能を確立するための方策や運動について熱く語り合つたものだ。世間では大学紛争が起こり、ヒッピーがはびこり、フォークが流行つた「花」の四十年代であつた。五十年代ともなると皆三十、四十代の働き盛りとなり、それぞれの拠点で責任も重くなつて業務に追われる毎日となり、以前のような交流は年に一回の学会や研究会に落ち着いてきた。それでも金子君と一緒に事務局を担当し創つた研究会は前述のもの、九州・山口地区自閉症研究協議会（現在も続いている）、九州心理劇研究会（現、日本臨

床心理研修会）九州発達障害療育研究会へ先年、解散等々がある。京都女子大の高木徳子教授、鹿児島県立短大の佐藤教授、彼と僕などは、それぞれ自閉症療育キャンプを主催しお互いを講師として呼んだり呼ばれたりした。彼が大分県の福祉部長から別府大学の教授へ転職した同じ頃僕も福祉施設から西日本短大へ転職した。学生ボランティアを自在に使えるようになったので一夏に三回も四回も療育キャンプを九重で行なつた。大分県なので彼が殆んど顔を出してくれ保護者相手の講師を勤めてくれた。

今や幽明境を異にしている。なに、それも時間の問題であらう。

又一緒になつて侃侃諤諤、双方一歩も引かず激論を交わすことになるだろう。それまで彼岸で待っていて呉れ給え。

（楠 峰光）



アフターコロナで 変わることも変わらないこと

2019年12月に端を発し全世界に波及した新型コロナウイルス感染症も、やっと落ち着いてきました。

我が国もそれまで感染症法の2類相当の扱いとして、厳重な行動規制を敷いてきましたが、今年連休明けから季節性インフルエンザ並みの5類に格下げを図りました。それまで感染者は毎日全数把握していたのが、定点観測に代わり一部の感染者のみ把握し、週1回の報告で済むようになりました。流行の推移をゆるやかな視点で見ているというものです。隔離期間も発症後5日を経過し解熱後24時間程度経てばよいという期間の短縮が図られました。また、濃厚接触者を特定し該当したものは、隔離対策が適用され、自宅待機を余儀なくされたのも不要となりました。

さらには、マスク着用もいくつかの例外はあるものの、個人の判断に委ねることとなりました。新型コロナウイルス自体は消滅したわけではなく、感染を予防するワクチンが複数登場したこと、治療薬も重症者向けの点滴薬や軽症、中等症向けの内服薬などが登場し使用できるようになったこと、ウイルス自体も現時点では強毒化していないことなどで、終息はしていないものの過度に恐れる必要がなくなったといえます。

これまでの行動制限による経済面や心理面などに様々な悪影響を及ぼす弊害を改善する必要性がでてきました。おかげで、玄洋会でもこれまで自粛していた活動や行事が復活しつつあり、今後利用者やご家族にとって有意義な時間が増えてゆくものと期待されます。

（糟屋子ども発達センター・さくら保育園

施設長・医師 水野勇司）

5類感染症とは、感染症法（感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律）が定める感染症の5類型のうちの1つで、感染力や重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が最も低いとされるもの。季節性インフルエンザや麻疹、風疹、感染性胃腸炎、RSウイルス感染症などの一般的な感染症はここに分類されている。

アフターコロナの利用者支援

待ちに待ったアフターコロナです。

全てが以前のようにはいきませんが少しずつ、もとの生活に戻りつつあります。例えば送迎。6月より天神便、北九州便を再開しました。体調不良者がでてもすぐに受診に行けるように以前の週末ではなく平日に設定するなど今の状況に合わせていきます。その他、食堂のパーティションの撤去、活動も男女別から混合へ。その中でみんなが一番喜んでいるのはやはり帰宅とSSTです。少しずつですが大好きな温泉や美味しいものを食べに行ったり、お買い物などなど。やりたいことが山ほどあります。

手洗い、うがい、マスクの着用、消毒、換気、日に3度の検温などは継続していますがそうすることで入所者の健康をこれからも守っていきます。

3年前、突然の変更や制限、私達職員も戸惑う中で皆、よく受け入れることができた職員も驚くばかりです。皆の適応力、集団力に脱帽です！

（昭和学園 綱脇美智子）

昭和学園「開園記念行事」

梅雨の晴れ間に夏の足音が間近に感じられるこの頃、昭和学園では、開園32周年を迎えました。式典でのスライドショーでは歴史を感じました。利用者さんの昔の写真から現在の写真まであり、皆さん懐かしい様子で観賞して

いました。また利用者演し物では、ダンスクラブで「チグハグ」と「365歩のマーチ」を踊りました。練習の成果を十分に出し切って踊ることができていました。職員演し物では、「あたまおしりゲーム」といった言葉遊びで、利用者が頭を抱える職員を助けてくれる場面もあり、大盛り上がりでした。

昼食は、ジュースで乾杯をし、豪華なお寿司を食べ、心もお腹も満たされた記念日となりました。



(昭和学園)

藤野樹里



やまと更生センター「24周年記念行事」

令和5年7月3日月曜日、やまと更生センター開所24周年を祝う記念行事を行いました。

午前は創作活動の中で、手形をモチーフにした記念品作りを行いました。絵の具を手塗る感触、画用紙に押された自分の手の形を見て楽しみ、それぞれ思い思いに過ごしました。

皆さんが楽しみにしていた当日の昼食は、豪華なちらし寿司と魅力的なおかず盛り合わせでした。献立表では「お楽しみメニュー」とだけ伝えていたので、蓋を開けるまでドキドキわくわく。蓋を開けるときの皆さんのキラキラした瞳はとても印象的でした。

午後からは、2グループに分かれてスライドショーを鑑賞しました。中でも1番盛り上がりを見せたのは、他事業所へ異動した職員からのビデオメッセージでした。馴染みの職員が画面に映ると、「〇〇先生だー!!」と思いきいの声があがり、久しぶりに見る職員の元気な姿を見て、自然と笑



み。職員が画面に映ると、「〇〇先生だー!!」と思いきいの声があがり、久しぶりに見る職員の元気な姿を見て、自然と笑



顔になっていました。

25年目のやまと更生センターも利用者と共に笑顔溢れる1年にしていきたいと思います。

(やまと更生センター)



吉田早希

東郷神社 春季例祭

令和5年5月27日に大峰山自然公園日本海海戦記念碑前広場にて、東郷神社春季例祭が執り行われ、玄洋会の職員は総勢28名が参加いたしました。玄洋会の職員は典儀の中で「海征かば」と「日本海海戦」の2曲を奉唱いたしました。

典儀の後には講演会として、高原先生が講師を務められました。講演会の中では高原先生が参議院選挙出馬ため全国を回っている際、偶然にも東郷神社に縁がある方と出会うという、なんとも運命的なお話をされておりました。今後とも地域交流といたしまして、このような御縁を大切に参りたいと思っております。



(昭和学園 松本郁実)



昭和学園「遠足」

5月22日～5月31日の期間で、グループに分かれての遠足を実施しました。今年度は、コロナウイルスの流行も落ち着いたので、前年度のプランから少し規模を拡大し、海の中道海浜公園や夜須高原記念の森、アイランドシティ中央公園など大型遊具がある公園へ行きました。

どの日程も天候に恵まれ、遠足当日は事前アンケートで選んだお弁当とおやつ、ジュースを持って出発しました。利用者の皆さんからは、「外で食べるお弁当は美味しい」や「おやつが沢山で嬉しい」等、嬉しい言葉を沢山いただきました。

大きな事故もなく、無事に遠足期間を終了することが出来ました。久しぶりの外出で皆さんとても楽しそうな様子でした。来年も、色々な所へ外出できることを願っています。

(昭和学園 丸山彩花)



御田植祭

6月18日に4年ぶりの御田植祭をおこないました。久しぶりの開催でしたので、初めて参加した職員も多く、田んぼの泥濘に足を取られながらの手植えとなりました。曇天ではありましたが、雨も降らず時折風が吹き抜け、心地良さを感じた天候でした。

女性職員は恒例の早乙女姿になり、奴山古墳群の下で田植えをする姿は、今は昔となった日本古来の光景を感じさせる物でした。

近年は異常気象が続き、昨年は田植え後の濁水により大きく収穫を減らした一年でした。今年も自然と向き合いながら苗を育て、無事に実りをつけてくれることを祈るばかりです。

秋風吹く頃、皆様に豊作のお知らせができること楽しみにしております。

(昭和学園 田浦一敏)



浜千鳥「施設見学会」

令和5年6月、「浜千鳥見学会」と銘打って保護者の皆様に「浜千鳥の普段の療育活動をご覧になりませんか？」とご案内したところ、10組の保護者の方にご来所頂きました。自分の子どもが普段、どのような様子で療育活動に取り組んでいるのか、その実際を観て頂くとともにご家庭での様子などをお伺いする事もできて、保護者・職員それぞれに有意義な時間を持つ事ができました。

これまで書面上のやり取りに留まっていた職員もいる中、顔の見える関係性を築く事もできました。今回は見学会に留まらず、保護者の皆様にもお子様と一緒に活動に取り組んでいただき、とても和気あいあいとした雰囲気の中で楽しく過ごして頂きました。また、次回の企画も考えたいと思います。

(浜千鳥 堀隆博)





安ら居「苺狩り」



5月28日、保護者の方からご招待をいただき、みんなで苺狩りに行きまし。休日にはバスを使用した外出が久しぶりだったこともあり、この日をととも楽しみにしていました。



ハウスに入った瞬間漂う甘い香りに思わず笑みがこぼれ、また、

一面に広がる葉の中から食べごろの苺を見つける宝探しのようで、とてもワクワクしました。みんな宝探しが得意なようで、すぐに赤くて美味しそうな苺を見つけることができました。



自然を満喫しながら、甘くて美味しい苺を食べ、季節感を味わうことができました。

(安ら居 白石唯)



奉仕活動

6月4日、昭和学園保護者有志の皆様環境整備作業をおこなって頂きました。

令和元年6月以来、4年ぶりの奉仕作業です。蒸し暑い中、22家族27名のご家族に草取りや側溝の泥上げなど、普段なかなかできない箇所の美化をお願いしました。

作業の後、昼食をいただきながら懇親会もおこないました。



親御さんから、利用者の子どもの頃のエピソード、思春期が大変だったこと、最近の帰宅時の過ごし方などをお聞きする貴重な時間になりました。改めて、直接会って交流することの良さを感じました。

ご協力いただいた皆様、大変にありがとうございました。

(昭和学園 木村武士)



地域交流

津屋崎山笠

7月15日、16日に開催された「令和5年度 津屋崎山笠」に参加しました。

4年ぶりの開催となる今回、北流8名、新町流11名と総勢19名昇き手として参加しました。

久しぶりの山笠となり、初参加の職員も多数いましたが、全員怪我なく最後まで、昇くことが出来ました。

利用者のSSTもあり10名で、山笠を見学しました。

見学した利用者は「先生すごいね」「楽しかった」など、感想を述べており、写真を撮影したりしながら、山笠を楽しみました。

これからも町の伝統に触れていきたいと思ひます。当日は暑い中、昭和学園の利用者や法人職員も多数応援に駆け付け、大きな声援を頂きました。ありがとうございました。

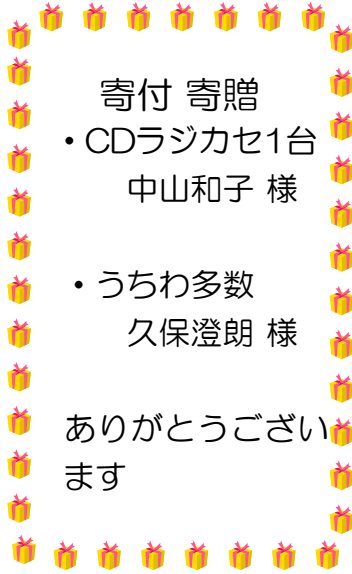


(昭和学園)

池田宇門






 寄付 寄贈
 ・CDラジカセ1台
 中山和子 様
 ・うちわ多数
 久保澄朗 様
 ありがとうございます
 ます



昭和学園では、講師を招きワークショップを行っています。
 毎回、違う課題に楽しく取り組んでいます


 工作教室

玄洋会新入職員紹介

やまと更生センター

坂田 晃一（生活支援員）

- ・出身地…福岡市
- ・前職…ハウスクリーニング業
- ・趣味…アウトドア
- ・抱負…精一杯がんばっていきたいと思います

藤井 朗裕（生活支援員）

- ・出身地…北九州市
- ・前職…陸上自衛官
- ・趣味…キャンプ・釣り
- ・抱負…明るく前向きに頑張ります
よろしくをお願いします

福岡東子ども発達センターさくら園

平松 忠義（送迎員）

- ・出身地…福岡県
- ・前職…車両全般回送
- ・趣味…温泉・映画観賞
- ・抱負…毎日安全運転に努めます

浜千鳥

花田 正孝（職業指導員）

- ・出身地…福津市
- ・前職…中学校教諭・農業
- ・趣味…散歩・ゴルフ
- ・抱負…新たな仕事ですので、精一杯仕事に取り組んでいきたいと思ひます

宝 満

信太 正勝（生活支援員）

- ・出身地…東広島市
- ・前職…陸上自衛官
- ・趣味…DIY
- ・抱負…利用者に喜んでもらえる様に頑張ります

村山 美恵子（生活支援員）

- ・出身地…福岡市
- ・前職…ドラッグストア
- ・趣味…ビーチバレー
- ・抱負…利用者楽しく生活してもらえる様手助けをしていきたいです